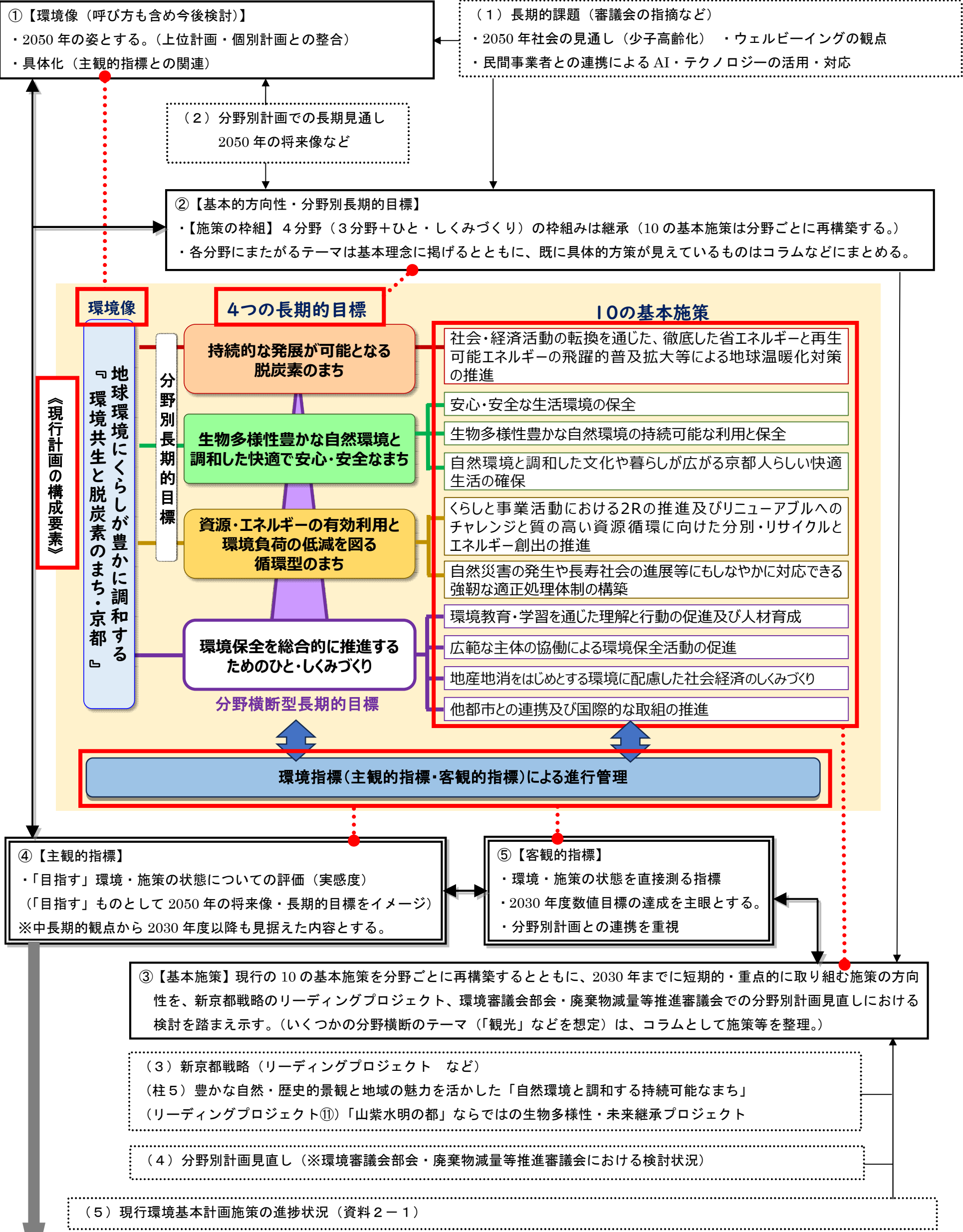


環境指標（主観的指標・客観的指標）の方向性について

1 体系改定の方方向性（現行計画からの変更点）

・現行計画の構成要素（下図中央）を基に、以下のイメージで整理を図る。



2 4分野（3分野＋ひと・しくみづくり）における環境指標の方向性

（1）指標の役割

- 「1 体系改定の方向性」を踏まえ、以下のように指標の役割を規定し、それに基づく新計画の指標を検討。

○【主観的指標】

・「目指す」環境・施策の状態についての評価（実感度）
（「目指す」ものとして2050年の将来像・長期的目標をイメージ）
※中長期的観点から2030年度以降も見据えた内容とする。

指標に掲げる内容の実感度を継続的に確認することで、講じられる具体的な施策が、環境の改善のみならず、計画の「将来像」「長期的目標」の実現に向かい、ウェルビーイングにつながるものとなっているかを測る内容とする。

➡

<主観的指標検討のポイント> ウェルビーイングの観点から以下の2点を重視する。

・2050年の将来像（分野別計画の将来像含む。）などから重要な要素を抽出し当てはめる。

・客観的指標だけでは把握できない、市民等が「環境・施策にどう関わっているか」を確認し、施策検討にも活用できる内容とする。

□主観的指標を把握するアンケートについて

・インターネットによる調査（市内15～79歳のアンケートモニターから行政区・年代・性別の構成比に基づき1000名分の回答を抽出）

・現在、主観的指標11項目のほか、回答者が実施している行動や意識なども含め、全体で約50問程度の選択肢中心の設問を聞いている。
（自由記述は回答数の確保のため、設問数を限定して実施。）

⇒このアンケートの枠組みを元にして、主観的指標の設問についてウェルビーイングの観点を測る内容としたい。（指標内容の考え方は「（2）指標改定の方向性」を参照）

●【客観的指標】

・環境・施策の状態を直接測る指標

・2030年度数値目標の達成を主眼とする。

・分野別計画との連携を重視

➡

<客観的指標検討のポイント>

2030年度の環境・施策の状況として、各分野で進行管理の観点から必要な指標を設定。

（2）指標改定の方向性

- 上記のポイントの考え方をベースに、今後、各分野別の部会においても検討していく。

4分野	現行指標（主観○※・客観●）	改定の方向性（案）
長期的目標1 持続的な発展が可能となる脱炭素のまち	○豪雨や熱中症など地球温暖化の影響と思われる危機が自分たちの生活に迫りつつある ○省エネルギーや節電の取組が年々進んでいる ○再生可能エネルギー導入の取組が年々進んでいる ○徒歩や自転車、公共交通機関優先の取組が年々進んでいる ●温室効果ガス総排出量削減率 ●エネルギー消費量削減率 ●消費電力に占める再生可能エネルギー比率	【主観的指標についての論点】 ・ウェルビーイングの観点からは、環境・施策の状態 or 回答者の行動のどちらを確認するものにすることが望ましいか。 ○主観的指標 現行の個別計画（地球温暖化対策計画 2021-2030）にも既に掲げられている「将来世代が夢を描ける豊かな京都」「ライフスタイルの転換（脱炭素が生活の質を高めるという考え）」の観点で検討してはどうか。
長期的目標2 生物多様性豊かな自然環境と調和した快適で安心・安全なまち	○空気や河川の水がきれいに保たれている ○多様な生きものが生息する良好な自然環境が保たれている ○自然環境と調和した文化や暮らしが広がっている ●大気汚染に係る市保全基準達成状況 ●水質汚濁に係る市保全基準達成状況 ●京の生きもの・文化協働再生プロジェクト取組者数	○主観的指標 環境質（公害）は、普遍的な内容であり、基本的に据え置いてはどうか。生物多様性については、個別計画（生物多様性プラン）にも掲げられる「自然への慈しみ」（親しみ）や、計画策定以降の新たな概念である「ネイチャーポジティブ」（自然生態系の回復）の観点で検討してはどうか。 ●客観的指標 「ネイチャーポジティブ」への貢献として、新たな客観的指標に自然共生サイト認定面積を設定してはどうか。
長期的目標3 資源・エネルギーの有効利用と環境負荷の低減を図る循環型のまち	○マイバッグの携帯などのごみを出さない暮らしが広がっている ○ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみの分別・リサイクルが進んでいる ●ごみ焼却量 ●食品ロス排出量 ●プラスチックごみ分別実施率（家庭）	○主観的指標 現行の2Rと分別・リサイクルの観点を継承しつつ、マイバッグ関連の記載は削除し、他の内容に置き換えるなどしてははどうか。
長期的目標4 環境保全を総合的に推進するためのひと・しくみづくり	○学校や会社、地域で環境学習や環境保全活動の機会が増えている ○環境に配慮したライフスタイルが広がっている ●環境保全活動プログラム参加者数 ●京の生きもの・文化協働再生プロジェクト取組者数 ●京都環境賞応募件数（累計）	○主観的指標 状態ではなく、「参加」など行動の観点で検討してはどうか。 ライフスタイルは「多様な」や「選択」などの観点をふまえつつ、分野横断的な観点で検討してはどうか。 企業の取組の状態を回答者目線での評価として「環境を考えた経営・取組を評価する社会になっている（と感じるか。）」といった指標を追加してはどうか。 ●客観的指標 消費者と事業者の関係性に着目するため、エンカル消費の取組状況を追加してはどうか。

※主観的指標の設問については、当該記載＋「～と感じるか。」という設問に設定しており、回答については、「そう感じる」「どちらかと言えばそう感じる」「どちらかと言えばそう感じない」「そう感じる」の4段階＋「わからない」で設定している。